

## 助産学、母児ケア、Lancet Series、人間開発指数 .....1

2014年、助産学に対する高い期待をトピックとして取り上げた雑誌がシリーズで発行された。このシリーズは助産学研究の第一人者らがチームを組み作成したものである。助産とは、妊娠前、妊娠中、出産時、産褥期、生後数週間にわたって、女性と新生児と家族とを対象にした熟練と知識を必要とする思いやりのあふれたケアである。最初に、女性の見解や経験についてレビューしているが、これらは質の高いケアの提供に欠かせないものである。報告書は質の高いケア、費用対効果からみて適切な母児のケアにおける助産師の貢献について述べている。シリーズの2冊目は78か国にわたる低/中レベルの収入の国における助産学の拡大に焦点を当てている。

人間開発指数が低い国の母体死亡、死産、新生児死亡の83%は助産師サービスで予防できたと考えられる。産科医等の専門医のケアを加えると死亡数は低下するものの、助産師による減少には及ばない。シリーズ3には母体死亡の低下に助産師を国家戦略として配置した4か国の調査結果が発表されている。シリーズ4には母児のケアのスケールアップに必要な行動、優先的研究、方策などが述べられている。国際助産師学会の発表は助産師であることを誇りに思わせるものであり、助産学にはまだまだ開発の余地があると確信した。報告書はどれも情報が満載であったが、このシリーズの発行は始まったばかりである。Lancet Series on Midwifery は世界中の母児の健康を改善するケアのスタンダードとなるのではないかとと思われる。

The Lancet Series on Midwifery: A Momentous Opportunity to Improve Maternal and Newborn Health  
Frances E. Likis, CNM, NP, DrPH, FACNM, FAAN, Editor-in-Chief  
J Midwifery Women's Health. 2014 Sep-Oct;59(5):477-478

## 母体年齢、高齢化、カップル、心理的苦痛、リスク、知識 .....4

高齢女性における初めての出産は母体-胎児の健康上のリスクの上昇を伴うため、公衆衛生上の問題ともなっている。今回の研究は、初産婦の高齢女性とそのパートナーにおけるリスクの知識について調査した。また、社会-経済的背景や生殖に関わる要因からみたリスクの知識の個人間のばらつきに関する調査も行った。また、カップルの心理的苦痛に、パートナーのリスクに関する知識がどのような影響をもたらすかという点についても調査した。今回の研究は、妊娠の診断時期と妊娠第3三半期の2時点において行われた縦断面的研究で研究の一部として実施された。

95名の高齢の初産婦とそのパートナーにポルトガルの都市部の病院で調査への参加を求めた。調査1では母体の高齢化に関わる出産のリスクに関する知識について質問票に回答を求めた。調査2では、18項目からなる簡易版の調査票を用いて設問に対する回答を求めた。

カップルのリスクに関する知識は母体年齢の妊孕性に関する影響、妊娠成立に対する医学的対応、ダウン症のリスクの上昇などに関する知識以外は不十分なものであった。女性におけるリスクに関わる知識は社会的背景や生殖に関わる要因により変わることはなかった。過去に不妊治療やARTを受けた女性の男性パートナーはリスクに対し高い知識を有していた。男性パートナーのリスクの知識が高い場合、カップル間の妊娠中の心理的苦痛が高まることが明らかとなった。

今回の結果から考え、高齢の初産の女性において、初めての出産が生殖に関わるインフォームドデシジョンに基づいていることは稀で、母体年齢が関わるリスクについてカップルの知識を高めるような予防的介入を提供することが必要であることが明らかとなった。女性の心理的苦痛に対する男性のリスクに関わる知識の影響について考えた場合、分娩前の介入はいずれのカップルも対象にした対応が必要であることが示唆された。カップルに母体の年齢が関わるリスクについて情報を提供し、自己コントロールの意識を高め、リスクに対応できるような効果的なコミュニケーションと対応戦略を促すよう指導すべきである。

Risk Knowledge and Psychological Distress During Pregnancy Among Primiparous Women of Advanced Age and Their Partners  
Maryse Guedes, MsC, Maria Cristina Canavarro, PhD  
J Midwifery Women's Health. 2014 Sep-Oct;59(5):483-493

---

筋弛緩、疼痛管理、患者教育、妊娠、予防的ケア、生活の質 .....15

妊婦はよく背部痛を訴えることがある。今までの研究結果では、継続的筋弛緩療法が妊婦の身体的および心理的結果を改善する可能性があることを示唆している。この研究の目的は、下部背部痛、すなわち腰痛を有する妊婦の疼痛とQOLに対する音楽などの継続的筋弛緩療法の効果について調査するものである。今回、前方視的無作為対照試験で筋弛緩療法の効果について調査した。合計66名の妊婦を筋弛緩療法群とコントロール群に無作為に分けた。背景となる情報、visual analog scaleによる疼痛のレベルの評価およびShort Form-36を用いてQOLの評価も行った。

介入から4週間後および8週間後に2群間で有意差が認められた。介入群ではQOLのスケールに有意な改善が認められ、疼痛は軽減した。介入群ではコントロール群に比較し、疼痛の軽減とQOLの改善が認められた。今回の結果から、音楽療法を併用した筋弛緩療法は腰痛を有する妊婦の疼痛とQOLの改善に効果的な治療法である可能性を示唆するものである。この結果を確認するためにはさらに大規模な無作為対照試験が必要である。

Effects of Progressive Muscle Relaxation Exercises Accompanied by Music on Low Back Pain and Quality of Life During Pregnancy

Zehra Baykal Akmese, RM, MSc, Nazan Tuna Oran, PhD, RN  
J Midwifery Women's Health . 2014 Sep-Oct;59(5):503-509

## 環境、公衆衛生、地域、ナイチンゲール、感染症予防、支援活動.....23

ナイチンゲールは、現代看護学の創設者であり感染症の予防とコントロールの支援活動を担っていた。4つの看護の典型的概念は個人、環境、健康、看護学からなり、根拠に基づいた介入の基礎となっている。看護師は近隣地域やコミュニティの環境上のリスクについて女性を教育し情報を与える理想的な立場にある。地域が異なると疾病の有病率も異なり、女性はこれに気づかないことが多い。看護師は知識が豊富であり受診時に女性を教育することで感染症の拡大を緩和する役割を果たしている。看護師はナイチンゲールの感染予防とコントロールという遺産を引き継ぎ、根拠に基づいた全人的介入を実施する必要がある。

The Effect of Environment on Nursing and Health Promotion for Women  
Marilyn Stringer, PhD, WHNP, FAAN, Associate Editor  
J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2014 Sep/Oct;43(5):541-542

## VBAC、妊娠、意思決定、支援技術、決断補助、女性の好み .....24

帝王切開の既往歴を有する妊婦における試験分娩の情報に基づいた意思決定ツールについて調査した過去に1回の帝王切開の既往を有するも、経陰分娩が適応となる131名の妊婦を対象に2005～2007年にかけて無作為対照試験を実施した。1群の女性にはVBAC（帝切後の経陰分娩）に関する根拠に基づいた双方向性の意思決定の支援を与え、2群の女性には2つの根拠に基づいた教育的冊子を提供した。意思決定支援に対する有効性を介入前後で調べた。

基礎レベルと比較しいずれの群においても情報が得られたという認識が高まり、どのような出産をすべきかという優先順位が明確になり、有益な多数の支援を受けたという意識も高まり、いずれの介入を受けたとしても葛藤は少なかったという回答が得られた。

妊娠第三半期の女性においては冊子群よりも双方向性意思決定支援群において出産の優先順位がより明確になったという回答が得られた。いずれの意思決定ツールも基礎レベルに比較し、どのような出産をすべきかという意思決定に伴う葛藤のレベルを低下させたが、妊娠早期と妊娠後期においていずれの支援ツールがより有効であるかという点に関して、さらに研究を進め理解を深める必要がある。

A Randomized Comparative Trial of Two Decision Tools for Pregnant Women with Prior Cesareans  
Karen B. Eden, Nancy A. Perrin, Kimberly K. Vesco, and Jeanne-Marie Guise  
J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2014 Sep/Oct;43(5):568-579

## 疲労、女性、母親、産褥期、心理-教育的介入 .....36

分娩後の疲労の関わる症状を軽減させるために心理-教育的介入法であるWAP（Wide Awake Parenting）の有効性について調査した。オーストラリアのビクトリア州内の地方で無作為対照試験を実施した。202名の母親を無作為に3群に分けた。1群63名は電話を介した支持的介入を含む専門家による支援を、2群67名には資料提供による支援を、3群72名には名簿に登録するだけのコントロール群とした。

専門家支援群は冊子を利用し家庭訪問を試み3回の電話による支援を試みた。自発的資料提供群は単に冊子を提供し自発的な活用を促した。コントロール群は通常のヘルスケアサービスを提供した。一次評価項目は疲労、抑うつ、不安、ストレス症状の低下とヘルスケアに対する信頼度と態度とした。

母親たちは2週間後と6週間後に追跡調査を受けた。専門家支援群の母親は介入後6週の時点でコントロール群よりも疲労が関わる症状のレベルの低下が認められた。いずれの介入群においても追跡調査によって健康的な行動とセルフケアに関わる行動の面においてポジティブな結果が得られた。

専門家による支援を受けた群の母親は抑うつ、不安、ストレス症状などのレベルの低下が認められた。今回実施した心理教育介入法であるWAPは母親の自己効力を高め、母親は健康的行動とセルフケアに努め、精神衛生や疲労の管理に努めるものが多いという結果が得られた。また、本論文においてはWAPの実施法や今後の活用に対して検討を加えた。

The Efficacy of an Intervention for the Management of Postpartum Fatigue  
Rebecca Giallo, Amanda Cooklin, Melissa Dunning, and Monique Seymour  
J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2014 Sep/Oct;43(5):598-613